

2015年3月期第2四半期 業績概要

橋本 裕一

アンリツ株式会社 代表取締役社長

2014年10月31日



東証第1部:6754
<http://www.anritsu.com>



Anritsu envision:ensure

(ノート部記載なし)

注 記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与える重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

(ノート部記載なし)

目 次

I . 2015年3月期第2四半期 業績概要

I -1. 事業概要

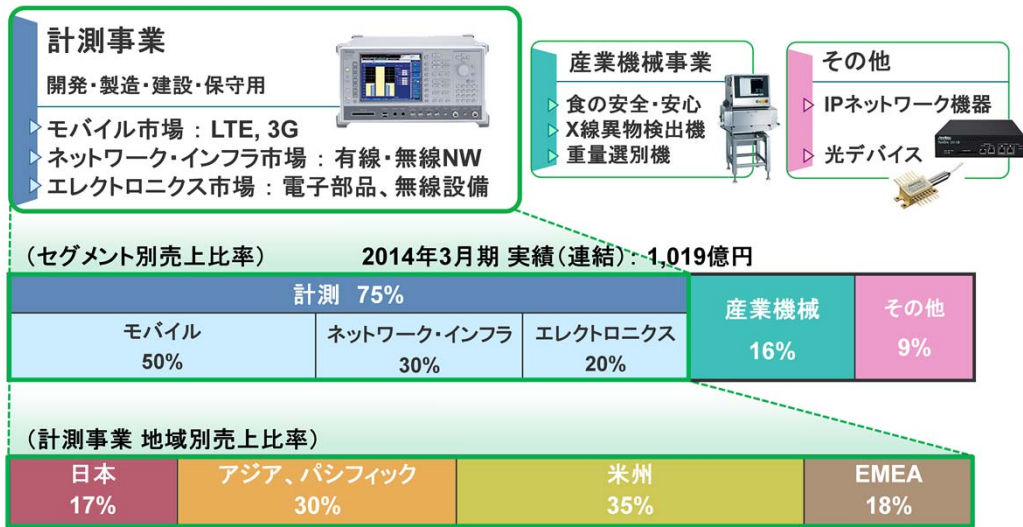
I -2. 連結決算概要

I -3. 2015年3月期 通期業績予想(連結)

II .その他

(ノート部記載なし)

I -1. 事業概要



(ノート部記載なし)

I -2. 連結決算概要 - 事業別状況 -

- ▶ 計測：アジア市場が全体を牽引
- ▶ 産業機械：受注高は前年と同程度

セグメント	2015年3月期第2四半期(4月-9月)の状況
計測	<ul style="list-style-type: none"> ・モバイル:LTE-Advanced開発用需要が堅調 ・ネットワーク・インフラ:光・デジタル計測器の競争激化 ・エレクトロニクス:顧客の投資抑制傾向が継続
	<ul style="list-style-type: none"> ・日本:設備投資全体が低調 ・アジア:TD-LTE関連の開発投資が堅調 製造用は前年並みで継続 ・米州顧客:世界開発拠点へ分散投資傾向が強まる
産業機械	海外は堅調な一方、国内は前年同期比減収

計測事業は、モバイル市場向け開発用計測器需要がアジアを中心に堅調に推移しました。スマホベンダーによる製造用の計測器需要は、中国を中心に設備増強の動きが継続しており、競合との競争が厳しくなる状況の中で前年度並みの実績となりました。ネットワーク・インフラ市場向け計測器については、基地局建設・保守用計測器需要が第1四半期に比較して回復傾向となりましたが、光・デジタル計測器では競争が激化しています。

産業機械事業は、海外市場は堅調に推移しましたが、日本市場では前年比で減収となりました。また、海外展開加速のための投資や、新製品開発投資を積極的に行いました。

I -2. 連結決算概要 - 業績サマリー -

(単位:億円)

国際会計基準(IFRS)	前第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	当第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	506	489	△ 17	△3%
売上高	481	480	△ 1	△0%
営業利益	63	46	△ 17	△27%
税引前利益	66	50	△ 16	△24%
当期利益	43	35	△ 8	△19%
当期包括利益	56	51	△ 5	△9%
フリーキャッシュフロー	45	51	6	14%

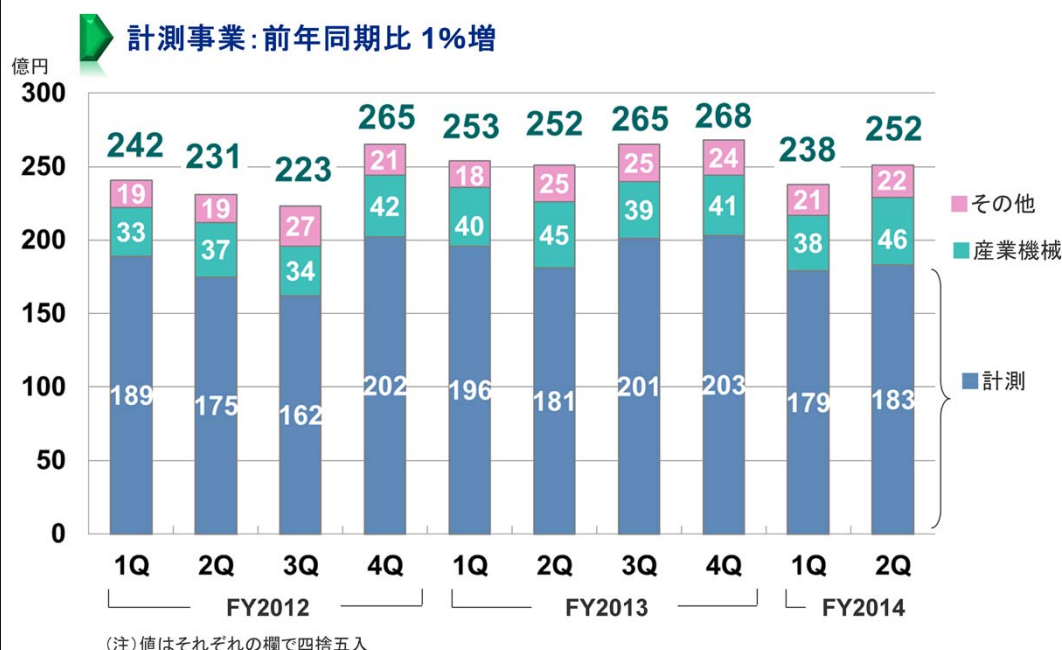
(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

グループ全体の受注高は前年同期比3%減の489億円。売上高はほぼ前年同期比並みの480億円となりました。

営業利益は前年同期比27%減の46億円となりました。この主な要因は、計測事業・産業機械事業ともに開発投資を強化していることと、計測事業において昨年1年間にわたり強化した海外顧客に対応するための費用が増加したことによります。

当期利益は、前年同期比19%減の35億円、包括利益は、前年同期比9%減の51億円となりました。

I -2. 連結決算概要 - 受注高推移 -



第2四半期の受注高は計測事業が前年同期比1%増の183億円、産業機械事業が前年同期並みの46億円、グループ全体では252億円となりました。

計測事業ではモバイル開発用需要で一部の顧客に投資抑制が見られたこと、またTD-LTE製造用の計測需要が想定より遅れていることから、当初予定した受注水準を下回りました。

なお、受注残高はグループ全体で184億円、計測事業で140億円であり、いずれも前年同期を上回る水準となっています。

I -2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

国際会計基準(IFRS)

(単位:億円)

		前第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	当第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
計測	売上高	365	367	2	0%
	営業利益	61	47	△ 14	△23%
産業機械	売上高	82	77	△ 5	△6%
	営業利益	6	1	△ 5	△79%
その他 (含:内部消去)	売上高	34	37	3	9%
	営業利益	△4	△2	2	-
合計	売上高	481	480	△ 1	△0%
	営業利益	63	46	△ 17	△27%

(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

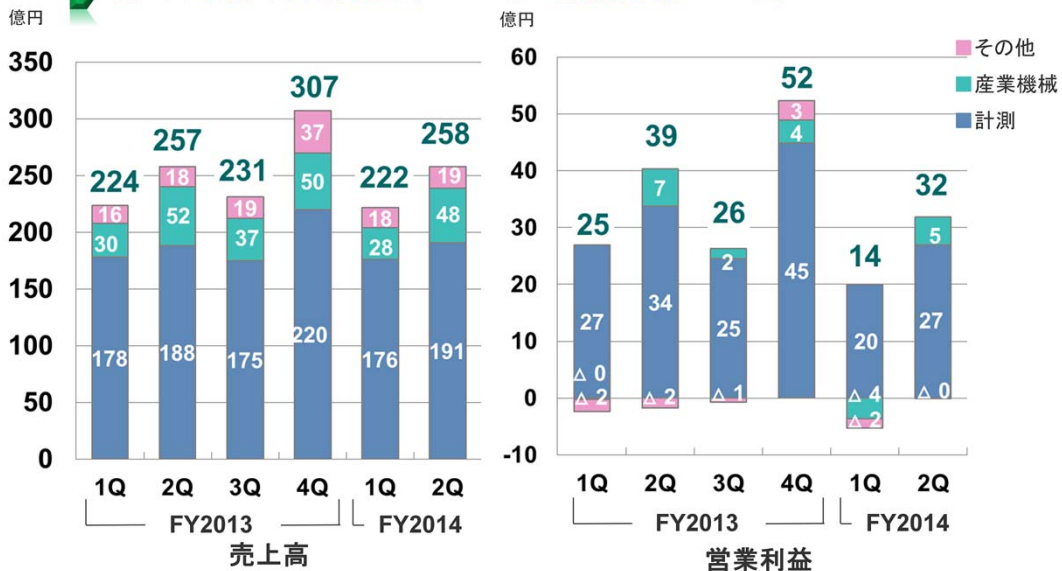
計測事業の売上高は、ほぼ前年同期比並みの367億円、営業利益は同23%減の47億円で、営業利益率は12.7%となりました。

売上高はモバイル開発需要が堅調に推移したことにより、ネットワーク・インフラ市場、エレクトロニクス市場での鈍化をカバーし前年並みとなりました。営業利益については、研究開発投資の拡大や海外での販売費の増加により減益となりました。

産業機械事業は、海外市場は堅調に推移したものの、日本市場での減収により、売上高は前年度から減収となる77億円となりました。また、研究開発投資と海外展開投資を進めた結果、営業利益は1億円となりました。

I -2. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

▶ 第2四半期の営業利益率 12.4% (計測事業 14.2%)

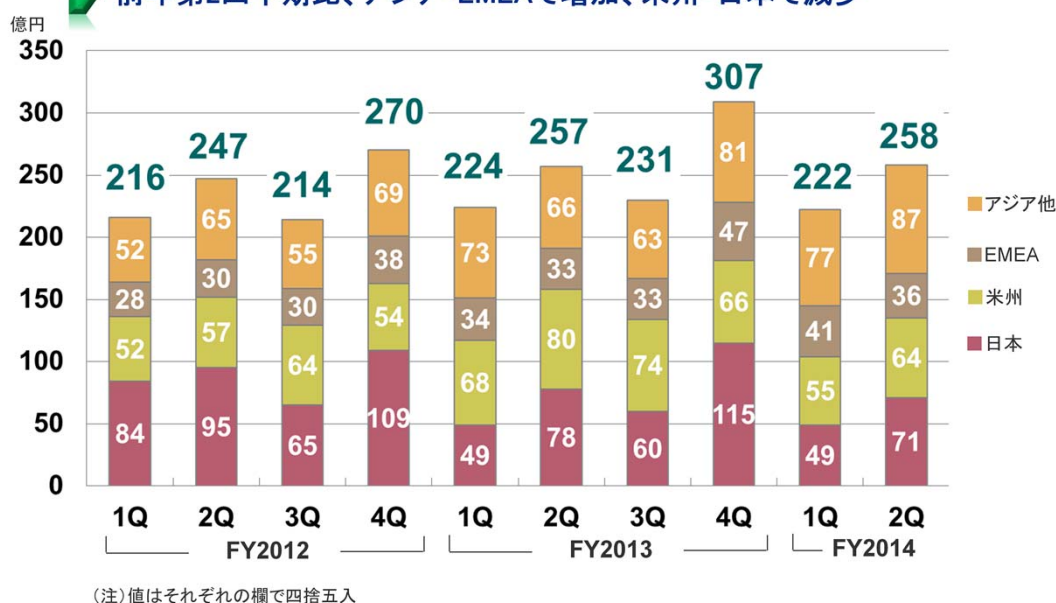


第2四半期の売上高は、連結が258億円、計測事業が191億円でした。

第2四半期の営業利益率は、連結で12.4%、計測事業が14.2%となりました。

I -2. 連結決算概要 - 地域別売上高推移 -

▶ 前年第2四半期比、アジア・EMEAで増加、米州・日本で減少



地域別売上高推移としては、第1四半期に続きアジア・EMEAで堅調だったものの、日本・米州では前年同期比で減収となりました。

日本では、計測事業のモバイル市場向け需要は前年度同期を上回りましたが、その他の市場でお客様の投資抑制傾向が継続しました。

米州の減収の主な要因は次の2点です。

- (1) モバイル開発需要で、お客様の投資が北米にとどまらず、アジア・欧州の開発拠点でも分散して投資されていること
- (2) 基地局建設・保守用の計測器需要が昨年同期比で減少していること、光・デジタル計測器で競争が激化していること

I -2. 連結決算概要 - キャッシュフロー -

▶ 着実にキャッシュフローを創出

FY2014 Q2(累計)

①営業CF: 67億円

②投資CF: △16億円

③財務CF: △40億円

フリーキャッシュフロー

(①+②): 51億円

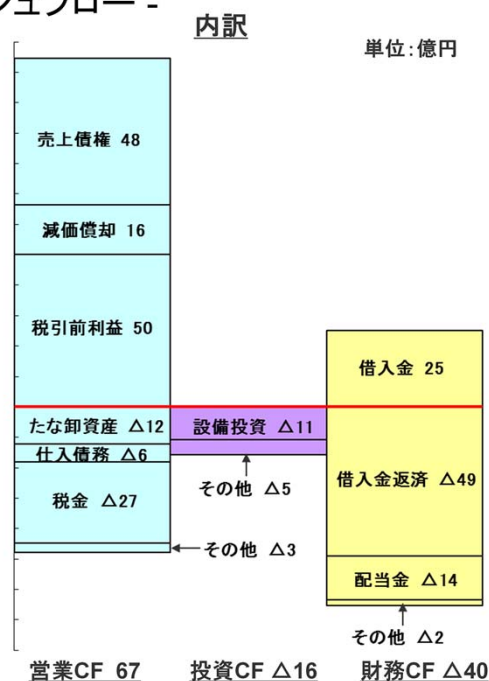
現金同等物期末残高

451億円

有利子負債高

165億円

(注)値はそれぞれの欄で四捨五入



営業キャッシュフローは、主に運転資本の改善により、67億円の資金獲得となりました。営業キャッシュフロー・マージンは13.9%となりました。

投資キャッシュフローは16億円となりました。建設中の厚木サイトの新棟「グローバル本社棟」の関連費用30億円については、今後の支出を予定していません。

その結果、フリー・キャッシュフローは51億円の資金獲得となりました。

財務キャッシュフローの40億円の資金流出のうち、主なものは配当金の支払い14億円(1株配当10円)、および借入金の借入と返済の相殺24億円です。

以上の結果、現金同等物期末残高は、期首残高より19億円増加の451億円となりました。

I -3. 2015年3月期 通期業績予想(連結)



連結利益業績予想を下方修正

配当予定は変更なし(年間24円:うち、中間配当12円、配当性向35%)

(単位:億円)

国際会計基準(IFRS)		2014/3期	2015/3期		前期比	
		前期実績	通期予想			
			4/24発表	今回		
売上高		1,019	1,090	1,045	26	3%
営業利益		141	160	141	0	0%
税引前利益		142	160	142	0	0%
当期利益		93	110	95	2	2%
計測	売上高	760	815	785	25	3%
	営業利益	130	145	130	0	0%
産業機械	売上高	169	180	165	△4	△2%
	営業利益	12	13	9	△3	△26%
その他	売上高	90	95	95	5	6%
	営業利益	△1	2	2	3	-

(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

(参考)下期想定為替レート:1米ドル100円、1ユーロ=135円

Anritsu envision:ensure

12

Financial Results FY2014Q2
Copyright© ANRITSU

2014年度の通期業績の見通しは、4月24日に発表した計画を変更します。変更する理由は次の通りです。

計測事業は、モバイル市場向け開発用計測器の需要トレンドには変化なく、下期も強い需要を想定しています。一方、モバイル製造市場およびネットワークインフラ市場、エレクトロニクス市場の受注水準が当初の想定を下回る見込みです。については売上収益を下方修正し、営業利益は前年度実績の同水準へ見直します。

産業機械事業については、上期の日本市場の停滞を織り込んで、売上収益・営業利益共に下方修正します。

税引前利益、当期利益及び親会社の所有者に帰属する当期利益については、営業利益の修正、為替差益の計上による金融収益の改善等を織り込んで修正しております。

なお、配当につきましては、期初計画どおり1株当たり年間24円(うち中間配当は12円)を予定しております。

II. モバイル市場のグローバルプレーヤー

■ 日本 ■ アジア、パシフィック
■ 米州 ■ EMEA

▶ チップセットベンダー

■ Qualcomm ■ Intel ■ Marvell ■ Nvidia ■ Broadcom ■ MediaTek ■ Spreadtrum
■ Hisilicon ■ Leadcore

▶ OTT / 端末メーカー / EMS

■ Apple ■ Google ■ Amazon ■ Microsoft+Nokia ■ Samsung ■ LG
■ Huawei ■ Lenovo ■ ZTE ■ Xiaomi ■ Micromax ■ HTC ■ TCL
■ OPPO ■ Coolpad ■ Sony ■ Kyocera ■ Sharp ■ Fujitsu
 EMS ■ Foxconn ■ Asus ■ BYD ■ Quanta

▶ 通信オペレーター

■ Verizon ■ AT&T ■ T-Mobile ■ Vodafone ■ Orange
■ China Mobile ■ China Unicom ■ China Telecom
■ SK Telecom ■ DoCoMo ■ SoftBank+Sprint ■ KDDI

▶ テストハウス

■ 7Layers ■ Cetecom ■ SGS ■ TMC ■ CanvasM

モバイルブロードバンドをリードするプレーヤーとの強固な信頼関係と次々と台頭するプレーヤーへの迅速な対応を事業基盤として、顧客ニーズを先取りするソリューションを提供する

Anritsu envision:ensure

13

Financial Results FY2014Q2
Copyright© ANRITSU

モバイル・ブロードバンド・サービスは、技術革新のみならずサービスの社会的
 拡がりにおいて、もっとも急激な変革が起きている市場です。それに伴い、フ
 ードチェーンや価値連鎖の構造も刻々と変化しています。その結果、プレーヤー間
 の合従連衡、事業の選択と集中の動きも目まぐるしく起きています。アンリツに
 とって、そうした顧客動向は業績を左右するリスクでもあり、事業機会でもあり
 ます。

アンリツはモバイルブロードバンドの発展を支えるグローバルマーケットリー
 ダーとして、市場の変化の波を確実にとらえて、次々と台頭するプレーヤーも含
 めて顧客との信頼関係を強固なものにする努力を続けてまいります。

II. 2014年度下期業績を支える新製品群

▶ 計測事業

ネットワーク・インフラ市場

MT1000A
ネットワークマスタ プロ
(2014年7月)



10 Gbps メトロ・バック
ホールネットワークの
建設・保守に1台で対応

MT1100A
ネットワークマスタ フレックス
(2014年10月)



100 Gbps コア・メトロネット
ワークの研究・開発、製造、
建設・保守に1台で対応

▶ 情報通信事業

帯域制御装置 PureFlow® GSX-XR



海外対応版をリリース 北米市場展開

▶ 産業機械事業

X線異物検出機 XR75シリーズ
(2014年11月)



保守費用を抑え生涯
コストを低減

密閉型のため高温・粉
塵等の環境でも安心

金属検出機 M5シリーズ
(2014年10月)



高コストパフォーマンス
簡易な画面操作と安定
性で生産性向上

Anritsu envision:ensure

14

Financial Results FY2014Q2
Copyright© ANRITSU

この下期には新製品も続々リリースします。

計測事業のネットワーク・インフラ市場向けには、7月に発売したネットワークの建設・保守に最適なMT1000Aに続いて MT1100A を販売開始しました。超高速ネットワークの研究・開発・製造・保守に一台で対応可能であり、モジュールを追加することで今後の機能拡張も容易に行うことができる、新プラットフォームとなります。

産業機械事業では2つの新製品をリリースします。新しいX線異物検出機はこれまでよりも費用対コスト性能の優れた、顧客訴求力の高い製品です。また、新しい金属検出器は操作性を改善したことにより、生産ラインでのトラブルを減らすことができます。

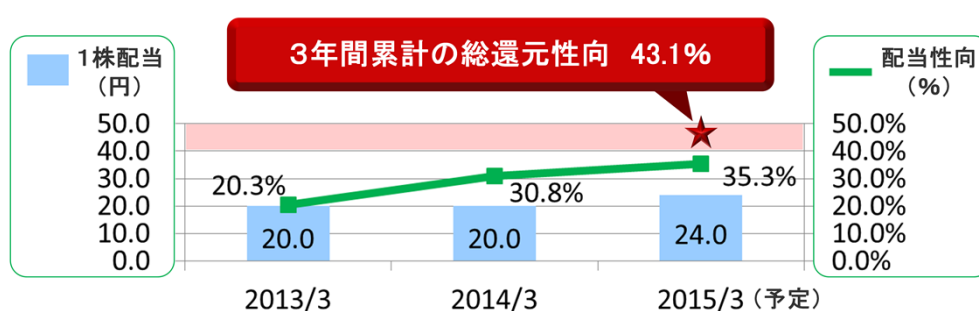
情報通信事業からは、海外展開を目指して既存の帯域制御装置 PureFlow®を海外対応版とした新製品をリリースします。

主力のモバイル市場向け計測器を軸に、これらの新製品を加えて、下期の目標達成に向けて取り組んで参ります。

Ⅱ.自己株式の取得 — 資本コストを意識した経営の実践 —

目的：資本効率の向上、株主還元の充実

1. 取得対象株式の種類 : 普通株式
2. 取得できる株式の総数 : 7,000,000株(上限)
3. 株式の取得価格の総額 : 50億円(上限)
4. 取得期間 : 2014年10月31日～2014年12月22日



三カ年計画GLP2014で取り組んできた財務体質の改善は、目標を前倒して達成することができました。それらを踏まえて、資本効率の向上と株主還元の充実を目的に、自己株式の取得を実施します。取得規模は、総額50億円(または株数7百万株)を上限とするものです。

この取得により、GLP2014(2012～2014年度)の3年間の総還元性向は43.1%となる計画です。今後とも「利益ある持続的成長」を基本方針に資本コストを意識した経営を実践して、ROE、ACE(アンリツ独自の企業価値向上KPI=税引き後営業利益-資本コスト)、ROICなどの改善に取組み、企業価値を向上させていきます。



株主・投資家のみなさまのご支援とご協力をお願いして、2015年3月期第2四半期の業績報告とします。ご静聴ありがとうございました。